

魂がこもった手書きの設計図 生きている素材だけを使って 1年以上かけて命を吹き込んだ家づくり

参會堂



同社の施工例

景を辿り、その夢を叶えるためにこんな家もいいのではという提案が、他とは違う同社のエッセンスとなる。言われた通りに動くだけでは、同社の手がける意味がない。具体的なイメージを空気感まで共有するために、ラフデザインは必ず手書きで行う。「このプロセスをデジタルで済ませると、ディテールのニュアンスや想像力に欠ける」と、平成4年の創業以来、海老原代表がこだわり続けてきたやり方である。

こだわりは打合せだけではなく、素材一つでも妥協はせず、大量生産されたものを使用しない。納得のいく素材やインテリアを選ぶために、依頼者と一緒にヨーロッパへ飛ぶことも少なくないという。「自然の素材、こだわってつくられた部材は、一つひとつに神様が宿っています。それだけで、醸し出す気品が違います。そうやって建てた家は、疲れもしつかり取れて明日も頑張れる。休日も外出したくなくなるような、心地よい空気の流れる家になるんです」と代表は語る。

何よりも打合せに時間をかけ、国内外問わず本物の素材を求め続ける。住む家族が想い描く理想の生活を知り、実現に全力を注ぐ。そんな想いをもった職人が手がけるからこそ、参會堂の家には命が吹き込まれるのだ。

参會堂(目黒区中根、海老原進一代表、03・5726・1120、<http://www.sankaido.com/>)の家づくりは、正直言って時間を要する。受注してから、まず徹底的なイメージの共有から始める。大事なのは事前の打合せ。ホテルのような家に住みたい。大きなガレージのある家がいい。あの映画で見た家がほしい。さまざまな依頼者の想いを見える化していきながら、何故そういう家に住みたいのか背